

子どもが生きる ボランティアが育つ

—チルドレンズミュージアムにおける市民参画の可能性—

キッズプラザ大阪 事業コーディネーター 吉村 幸子
インタープリター担当 窪田 美知留

1. はじめに

キッズプラザ大阪は、「子どもたちが楽しい遊びや体験を通して学び、創造性を培い、可能性や個性を伸ばす」ことを理念としたチルドレンズミュージアムとして、平成9年に開館し、一般の来場者をはじめとして、保育所・幼稚園・小学校・地域の子ども会などの遠足、また、学校教育の体験学習の場所として利用され、毎年40万人以上の来場者があり、今年で17年目を迎える。

開館以来、運営の基盤として、体験型展示、ワークショッププログラム、そしてボランティアスタッフによって、子どもたちの学びをサポートしており、市民参画型の開かれたミュージアムとして、当館ではインタープリターと称するボランティアの役割及び活動内容とともに、事業におけるボランティア参画の意義とその展望について報告する。

2. インタープリターの活動方針

1) 活動趣旨

キッズプラザ大阪のインタープリターは、体験型展示物やワークショッププログラムと来館者をつなぐかけ橋となり、展示物の説明や子どもたちの興味や発見を引き出し、一緒に遊ぶなど、体験型展示物やワークショッププログラムを通じて、子どもたちの遊びと学びがより楽しくなるようにサポートする役割を担っている。

2) インタープリターの役割

- 展示物に対する興味や発見を促す。
- 来館者が安心して遊べる環境を作る。
- 来館者が安全安心、快適に過ごすことができるように環境を整える。

3) インタープリター制度

- 登録人数 324名（2013年度現在）
- 18歳以上（高校生不可）
- 活動時間 9時半～17時15分、一日平均20名が活動

- 月2回程度の活動
- 月1回の会議
- 1年間の登録更新制（最大5年まで）
- 活動への実費弁償、交通費（1日上限2,000円）と昼食費（1,000円）

4) インタープリターと協働の館運営をするための取り組み

キッズプラザ大阪の理念や趣旨に賛同していただきながら、ボランティアとスタッフが対等の立場で協働し、館の運営をより円滑に育むために、日々子どもたちとの関わりとともに大切にしている活動内容として、ミーティング（活動後のふりかえりを含む）とインタープリター会議がある。

① ミーティングとふりかえり

インタープリターの活動の開始時は、全体ミーティングがあり、出欠確認・団体の予約状況・イベントの共有・連絡事項など、インタープリターの専属担当が実施する。その後、各コーナーに分かれ、コーナー担当者から、10分程度のコーナーミーティングの時間をもち、改めて、コーナーにおける連絡事項や最近の状況、展示物の修理確認などを共有する。

また、活動が終了する30分前からは、最初の15分はインタープリター間でふりかえりを行い、まずはボランティア同士で課題に対して自己解決を目指し、後半の15分はコーナー担当者を交えて、再度、子どもたちとの交流のうえで、楽しかったことや困ったことなどを確認する。

一日で、合計50分程度のミーティングとふりかえりを行うことで、スタッフとボランティア間における子どもへの眼差しや目標意識が確かなものとなり、また、館の安全管理面も強化される結果を生み、それらすべてが日々の運営体制に反映される。

【インタープリターの一日】

時 間	内 容
9:30	全体ミーティング
9:40	コーナーミーティング
9:50	活動（AM休憩15分、昼食休憩45分、PM休憩20分）
16:45	コーナーでふりかえり （前半15分はボランティアのみ、後半15分はコーナー担当者が入る）



朝の全体ミーティングの様子



コーナー担当者とのミーティング

② インタープリター会議

毎月、活動に関わる様々なテーマで会議を2時間実施する。登録しているボランティアが一堂に会し、近況情報や意識の共有を図ることで、自分の活動を見直し、視野を広げる場として、インタープリター同志の交流の時間になっている。毎月、約7割の方が参加し、参加できなかったボランティアに対してもフォローできるように努めている。

年間を通して、避難訓練から体験型展示やワークショッププログラムに関わる研修、講師を招いての講演会など多岐にわたる内容で行っている。

【インタープリター会議内容】

月	内 容
4月	年度初めの確認、顔合わせ
5月	避難訓練
6月	講演会「触る門には福きたる～ユニバーサルミュージアムの取り組み～」 講師：広瀬浩二郎氏（国立民族学博物館文化研究部准教授）
7月	コーナー研修①
8月	講演会「誰もが楽しめる博物館 vol.2 ～来館者の立場に立って考えよう！ホスピタリティって！？～」 講師：CAREER LABO 主宰 小松仁美氏
9月	館内探検～キッズプラザ再発見！2013～7つの種をさがそう～
10月	コーナー研修②
11月	講演会「ミュージアムボランティアのつながり～ネットワークが生むチカラ～」 講師：人と自然の博物館 主任研究員 八木剛氏 run ♪ run ♪ plaza 代表 清水文美氏
12月	登録更新について、ミニトークタイム「世界のチルドレンズミュージアム～ポスト ンチルドレンズミュージアムのお話～（話者：キッズプラザ大阪スタッフ）」
1月	リーダー会主催イベント「宝探し」
2月	ふりかえり
3月	卒業式



講演会「ユニバーサルミュージアムの取り組み」

③ 協力スタッフ制度

キッズプラザ大阪での活動体験や経験を、各地域で活かしていただくことを期待し、インタープリターの制度は最大5年の年限を設けている。

インタープリターの卒業生数は2000名を超えており、実際に当館の活動を活かし、地域のボランティアとして発揮されている人が数多くいる。

また、卒業制度と同時に、5年間のインタープリター活動を終えた方を対象として、当館の事業に協力をいただく外部グループの枠組み「協力スタッフ制度」を設けている。

現在136名のボランティアが登録しており、夏の企画展などの特別イベントのサポートや学校団体向けの体験学習のサポート、破損した展示物の修理など、通常のインタープリター活動外の施設の協力者として、不定期に活動していただいている。

3. ボランティアとの連携イベント

～企画に命を吹き込む、ひとの力～

キッズプラザ大阪のイベントは、人との出会いや、つながりをもつことによって、子どもたちの心揺さぶる要素＜発見・つながり・創造＞を意識して事業展開を行っている。また、見たり聞いたりするだけではなく参加・体験を含む内容で、「驚きのところ」を生み出す場となるような企画を目指している。主には、歳時や週末、春休みなど子どもたちの長期休みに家族で楽しめる大型企画展等を年間で恒常的に実施している。

子どものイベントを成立させるために、ボランティアスタッフは必要不可欠な存在であり、企画への理解・共感度はもちろんのこと、スタッフとの信頼関係なども含め、現場の空気に大きく影響し、子どもの遊びの質を大きく変化させるものとする。

また、マニュアルで固めた一面的な接し方ではなく、一人ひとりが、それぞれの経験や背景も含め自分の個性を出して生き生きと活躍されることが、子どもたちの自由な遊びと学びを誘い出し、さらに、世代間交流が図られることで、総合的な力となって環境に丸みを帯びさせ、遊びや知恵の文化が継承されるとともに、子どもたちのより豊かな成長を育む機会となる。

ここ数年では、卒業したボランティアの方々が自主的におもちゃ作りやシャボン玉あそびを行うグループなどが結成され、キッズプラザ大阪以外の地域での活動も活発になってきている一方、当館の事業にグループの特性を生かした様々な内容で関わっていただいている。

このようなグループを目標として、現役のインタープリターの方々も刺激を受けるなど、ボランティア間で良好な関係を育んでいる。

●イベント事例

① キッズプラザ大阪 周年記念企画イベント

15周年イベント「みんなであそぼう！コドモのチカラ！コンサート(2012/7/8,16実施)」

16周年イベント「あつまれ！あそびひろば ～キッズ×ミュージアムボランティア～(2013/7/14,15実施)」

キッズプラザ大阪では、毎年7月に館のオープン記念企画を実施しており、子どもたちが主体的に参加できるイベントを実施している。15周年記念イベントでは、例年、周年に協力いただいているアーティストとともに、当館オリジナルのバースデーソングを作り、子どもたちと太鼓に合わせ演奏をした。運営スタッフには、卒業したボランティアチームによる“おめでとう委員会”を結成し、参加者のナビゲートをはじめ、神輿を子どもたちとともに担ぐ対応など運営全般に関わっていただいた。また、周年期間中は、スタッフ、ボランティア等から子どもたちへのメッセージを掲示し、来館者との交流を図る事を重きに置いた事業となった。

16周年記念イベントでは、“あそび”をテーマに、当館で培ってこられた経験と技術をもった卒業ボランティアグループ5団体、計約50名によって“ASOBO! 委員会”を結成し、会議、ミーティングを重ね、おもちゃ作りやバルーンアートなど様々な遊びを用意した。大阪府下の生涯学習センター、福祉施設、専門学校等の協力体制ももって、アーティスト、学生のボランティア活動も加わり、例年以上にボランティアの力と思いがより強く彩られた事業となった。



15周年「こどものチカラコンサート」運営メンバー



スタッフ、ボランティアによるメッセージボード



16周年 ASOBO! 委員会ミーティング風景



コーナー担当者とのミーティング

② 大型企画展「THE ANT CUBE」～アタマとカラダで考える迷路 アリたちの冒険～
(2013/3/23～4/7)

企画展では、子どもの身近なことから丁寧に捉えながら、時季に相応しいテーマやタイムリーな題材を基に企画開発をし、当館の常設展示やワークショップとは別のアプローチとしてメッセージを伝えることをねらいとしている。

本企画展は、春休みシーズンに合わせて、テーマを身近な生き物として、子どもたちがアリになりきって、アリの生体の本質を五感で感じ取れる空間を作り、「生きた学び」を伝える体験型の企画展として開催した。

この企画の特徴としては、ボランティア（協力スタッフ）がすべてアリにふん装し、子どもたちとコミュニケーションを図るなど、子どもがアリになりきるための「ごっこ遊び」へと誘う重要な仕掛け人として運営に関わっていただいたことである。当日開催前には、企画の趣旨説明、子どもの関わり方、安全面等のボランティア研修会を行い、会期中、計96名のボランティア動員数で約3万人の来場者を迎えるなどリピーターを生む企画展となった。

また、大阪府下の博物館、デザイン専門学校等に協力いただき、監修及び展示制作を共同で行い、運営ボランティアとして学生に関わっていただくなど、外部連携が効果的に図れた企画展となった。



「THE ANT CUBE」ボランティアミーティング



アリにふん装したボランティアと子ども

4. チルドレンズミュージアムにおける市民参画とその可能性

当館で活動経験を重ねたボランティアは、さらに卒業後も様々な地域においてもその経験を活かし活動の輪を広げ、また新しい側面をもって、キッズプラザ大阪の強力なサポーターとなる。人と人との循環が、地域とのつながりを深いものとし、常に生きたミュージアム運営が可能となる。下記、当館がボランティアとの協働活動を育む意義と展望を掲げたい。

●子どもの健全育成を目標

ボランティアが展示やイベントを通して子どもたちと関わりを持つことで、子どもの興味

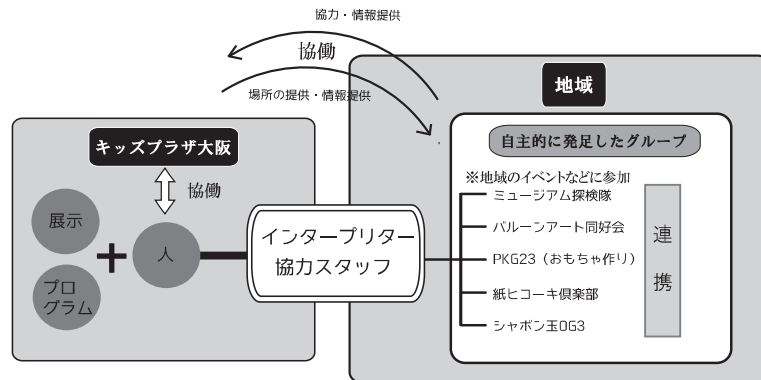
や発見を引出し、また、人間や社会の多様性を知る機会を与える機会となる。

●地域コミュニティの発展

キッズプラザ大阪でのボランティア活動体験や経験を地域の様々な場面で活かしていただくことで、地域コミュニティがより一層元気に活性化する一助となる。

●ボランティアと施設が共に成長

ボランティアに活動いただくことで、ボランティア同士も常に新しい情報を得ることができ、新鮮な館運営を目指すことができる。また、施設が掲げる子どもたちのためにできることという共通理念をスタッフと共に追求することで、相互の成長が図れる。



現代、子どもを取り巻く社会においても、ものや情報が溢れ、コミュニケーションが希薄化しているといわれている状況の中、子どもの気持ちに寄り添った活動を育む当館のあり方とボランティアの存在は、これからの地域社会において多方面で下支えとなる役割があるものになると考える。未来の子どもたちの育成を提唱するチルドレンズミュージアムとして、今後もボランティアとともに歩み、開かれた市民参画型の複合教育施設の中心的役割を担える様、更なる努力と発展を望みたいと思う。



“つながり ひろがり 「わ」をつくる” ボランティアとスタッフの絆